

平成28年度 都城市立山之口小学校 学校関係者評価報告書

評価 4:十分に達成 3:おおむね達成 2:努力を要する 1:取組内容の修正・変更を要する。

項目	重点指導項目	方策・手立て	成果と課題	総合	学校運営協議会委員の意見	委員の評価
豊かな心の育成	基本的な生活習慣定着・規範意識の醸成	○あいさつや言葉遣い、廊下歩行など基本的な生活習慣の定着を図る。	あいさつに関する教師の評価(4段階)は2.81、保護者の評価も2.98である。「日本一のあいさつ、会釈、右一静歩」を合言葉に指導を積み重ねてきたことにより、学校では会釈をする児童も増えてきている。また、無言清掃の取組も徹底されつつある。基本的な生活習慣の定着については概ね良いと考えている。しかし、普段の生活の中で進んで挨拶することが不十分な様子も見受けられる。まちづくり協議会のあいさつ運動と連携して、地域ぐるみでのあいさつ運動をさらに強化していく。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも元氣よく挨拶をしてくれる。まちづくり協議会の取組と連携して今後も励んでいただきたい。 ・福祉教育については、今後も児童の発達段階に応じて取り組んでいただきたい。Jrc活動やエコキャップ回収などは広報活動を強化するとよい。 ・道徳教育については、教科化に向けて児童の変容についてのどのように評価していくのか研究を深めていただきたい。 	3
	児童相互の望ましい人間関係の醸成	○望ましい人間関係の醸成を図るために、児童の人間関係の把握等、積極的な生徒指導を推進する。	人間関係に関する保護者の評価は3.35で友達と仲良く、親切にできていると考えている。学校においても、児童や保護者へのアンケートなどを毎月実施しており、不安や悩み等を把握し、教育相談を行ってきた。また、いじめ不登校対策委員会等で職員間の共通理解を図り、課題解決に努めた。問題行動に対する組織的な対応と早期解決に努めてきた。今後も、早期発見、早期解決に努めていく。			
	福祉教育や特別支援教育での心の教育推進	○人を思いやる心を育てるため、JRC活動や福祉体験、エコキャップ回収等を充実させる。 ○一人一人を大切に思いやりの心の育成につながるよう特別支援学級の児童と通常の学級の児童との交流を推進する。	本年度もペットボトルキャップの回収や赤い羽根共同募金への協力など委員会活動を中心に取り組んできた。また、朝のボランティア活動に取り組む児童が増えてきている。また、3年生では、高齢者や障がい当事者との交流を行うなど福祉体験が充実した。しかし、ボランティア、JRC活動に関する教師の評価は2.78、保護者の評価も2.78であり、学校全体としての更なる推進に努める必要がある。 特別支援教育については、夏季休業中に研修を行ったり、校外研修に積極的に参加したりして職員の資質向上に努めた。			
	道徳教育改訂の動向を踏まえた研修の充実	○特別の教科「道徳」の実施を見据えた研修を実施し本格実施に備える。	県の道徳教育研修会を受けて、最新の情報をもとに研修会を実施し、教職員の資質向上に努めてきた。また、次年度からの道徳教育の重点目標や重点指導内容を取りまとめるなど、「道徳科」を見据えた道徳教育の全体計画の整備に努めることができた。			
確かな学力の定着	研究的実践の日常化による学力の向上	○基礎的・基本的な内容を活用する力の育成のための研修を充実し、教科指導力の向上に努める。 ○児童の活用する力を向上させるために、学校生活の中で発言・発表する機会を豊富に設ける。	研究公開を通して、学習意欲を高め、児童同士が学び合う算数科の学習指導について、研究の成果を発表した。研究内容を踏まえた授業を繰り返すことで、児童は、算数科に対する学習意欲が向上するとともに、発言の量が増え、発言の質の高まりがみられるようになってきた。また、生き生きと自分の考えを表現する児童を育てるには、学び合う学級経営が基盤であることを実感することができた。多くの参観者の皆様から、学習指導過程や教材教具の工夫などではなく、活動する児童の姿や積み重ねの結果である学級経営を認めて頂いた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習の様子については、授業参観や意見交換会などを通して観察することができた。意欲的に自信をもって自分の考えを表現する児童の姿をたくさん見ることができ、たいへんありがたい。今後も指導の継続をお願いしたい。 ・学力については、下位層の児童の学力向上に努めていただきたい。学力向上に向けて地域としてどのような支援ができるか今後研究していきたい。 ・読書は読解力や考える力を養う上で大切な 	3
	学習習慣と学習のきまりの指導の徹底	○児童の主体的な学習を実現するために、家庭学習を含む望ましい学習習慣と基本的な学習のきまりと学び方を定着させる。	学習習慣に関する教師の評価は2.94、保護者の評価は3.14、で学習習慣が身に付いてきていると考えている。「授業中の7つの約束」をもとに、各学級で発達段階に応じた指導と各家庭への働きかけを継続することができた。しかし、学習用具の準備が整わない児童が固定化している、鉛筆の持ち方ができていないなどの課題も見られるので、今後も指導を継続していく。			
	基礎的学力向上のための家庭と学校の連携		基礎的な学力については個人差が大きく、基礎的学力の定着が依然として課題である。今後も、個別指導の徹底と繰り返しの指導に努めていく。また、家庭との連携が欠かせないので、「都城市学力向上に関する取組」に基づき、連携の強化を図っていく。			

<p>家読を含む読書活動の充実</p>	<p>○児童の読書を充実させるために、ハッピーデーを推進するとともに、家庭と連携し家読の啓発に努める。</p>	<p>図書の貸出冊数一人100冊を達成した児童が92名である（12月末日現在）。昨年度の貸出冊数を上回っている。読書に関する教師の評価も3.33である。ハッピーデーなどの取組の成果であろう。しかし、保護者の評価は2.64で教師の評価と差が生じている。「家読」等、家庭での読書の習慣が十分身に付いていないと考えられる。「家読」の良さを今後も継続して啓発していく必要がある。</p>	<p>活動である。家庭と連携して、読書量の向上に今後も努めていただきたい。</p>
---------------------	---	---	---

たくましい体づくり	体力向上プラン等活用による体育科の充実	○体力テストの結果による体力向上プランを踏まえた体育科の授業やスポーツタイムの充実を図る。 ○基礎的な体力や運動技能の習得のために山之口小サーキットの活用を推進する。	体力向上プランの実践について、教師の評価は2.88である。休日の外遊びについて、保護者の評価は3.12である。運動や外遊びについては、概ね評価できる。体力向上や運動技能を向上させるための体育学習の充実やサーキットトレーニングについては、実技指導研修会等を取り入れながら、授業の質の向上に努めていく。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体力については、概ね良い状況にあると思われる。今後も体育科の学習指導を充実させていただきたい。 ・治療率については、年々向上してきているので、ぜひ100%達成を目指してほしい。治療が終わらない児童が固定化しているの、家庭との連携の難しさもあると思われるが粘り強い取組をお願いしたい。 	3
	健康や安全に関わる基本的な生活習慣の定着	○健康・安全に関わる基本的な生活習慣の定着のために、家庭と連携して「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発に努める。	「早寝・早起き・朝ご飯」について、保護者の評価は3.15で良好である。			
	健診結果を活用した健康な体づくり	○自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。	保健便りや対象者に手紙を出すなど機会あるごとに啓発を続け、むし歯の治療率は64.9%（12月末日現在）である。しかし、治療が終わらない児童が固定化しているの、今後も更に個別の対応に努めていく。			
	弁当の日等を利用した食育の推進	○食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実を努める。	遠足のときに取り組む年3回の弁当日が定着してきたと考えている。実践記録を参観日に合わせて掲示するなどして、取組の充実を努めてきた。「子どもが作る弁当の日」について、保護者の評価は3.14で良好である。			
開かれた学校づくり	コミュニティ・スクールの整備・充実	○学校と地域(住民)のつながりを強めるために、コミュニティ・スクール体制を活用し、学習支援・環境整備等のボランティアを充実させる。	オープンスクールの実施形態を改善して2年目となり、参加者からの評価も高い。児童と地域住民とのふれあいに関する保護者の評価も3.39と良好である。特に本年度は、学校運営協議会委員と児童との意見交換会を実施するなど、更なる充実を努めることができた。学習支援ボランティアの活用も推進できた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの推進については、オープンスクールや意見交換会など、委員の意見を取り上げていただきたいへんありがたい。オープンスクールの参加者を広く募るなど、地域住民と学校との垣根を低くできるよう委員としても努力していきたい。 ・ホームページ等での情報発信については、学校の様子が良く分かるので、非常にありがたい。今後も継続して情報発信をお願いしたい。 	3
	一貫性・系統性・継続性のある連携教育	○保幼小中の連携強化による一貫性・系統性・継続性のある指導の実現	保幼小中連携による教育活動の充実について、教師の評価は2.76である。小中一貫教育山之口ブロックでは、漢字・計算テストを昨年に引き続き実施した。また、人権教育研修会など例年通りの取組も実施できた。さらに、挨拶運動などについても小中の連携が図られた。取組のマンネリ化をどう改善するかが次年度の課題である。保幼小においては、交流会を計画するなど、小1ギャップに対する対策を図っている。			
	各種メディアを活用した学校情報の発信	○学校の教育方針や教育活動への理解を促進するために、文書・メール・WEB・SNS等各種メディアの活用を努める。	学校フェイスブックやホームページを活用して、運動会や収穫祭などの学校行事を中心とした教育活動の様子を伝えることができた。安心・安全メールを活用し、速効性のある情報発信に努めた。保護者の評価も3.57と高い。			
	P T A 活動・家庭教育学級の活発化	○家庭の教育力向上や、生涯学習機会の提供のために、P T A 各専門部活動活性化の支援に努める。	家庭の教育力向上や、生涯学習機会の提供に関する保護者の評価は3.42と良好である。家庭教育学級は8回実施した。また、各学年で親子レクリエーションを実施し、ふれあいの機会の充実を努めた。しかし、P T A 活動の充実については、教員の評価は2.41と低い。一部のP T A 役員への負担過重や懇談会への参加者が少ないことなどが要因として考えられる。保護者の参画意識の醸成に努める必要がある。			